

大阪マンデーベースボールリーグ 大会要項補足

大会要項補足①・リーグの分割

大会要項補足②・参加チーム数による開催方法

大会要項補足③・勝点が同点の場合

大会要項補足④・試合時間

大会要項補足⑤・タイブレーク方式

大会要項補足⑥・人数不足による棄権試合

大会要項補足①・リーグの分割

- a) 参加チームが17チームを超えた場合は予選リーグを2つ以上に分割する。
- b) 予選リーグの分割方法は前年の順位を基に公平になるように分ける。
- c) b)の場合で新規または前年不参加のチームは前年最下位チームのあとの順位と仮定する。
 - ※優先順: 数字→アルファベット→50音→それ以外 の順
 - ※上記で「それ以外」が複数あった場合は和読みし、50音で並べかえる
- d) 総試合数が20試合を超えないよう順位決定リーグを分割する。
 - ※総試合数とは個人記録を集計する各リーグ戦の合計のことでプレーオフなどは含まない
- e) 準決勝リーグ、順位決定リーグの分割方法は予選リーグの順位を基に公平になるように分ける。
- f) 予選リーグを分割開催した時の準決勝リーグへ進出するチームについて
 - ① 1・予選順位、2・同勝率、3・勝数、4・敗数、5・得失点差、6・平均得点、7・同失点、8・最大得点、9・同失点の優先順で公平かつ規則正しく振り分けるものとする。
 - ② 準決勝リーグへ進出するチーム数が予選リーグのグループ数で割り切れる場合は上記①の1を適用し準決勝リーグ進出チームを決める
 - ③ 準決勝リーグへ進出するチーム数が予選リーグのグループ数で割り切れない場合は予選リーグ同順位のチームで①の2以降を比較して準決勝リーグ進出チームを決める
 - ④上記①②③は予選リーグ各グループでチーム数に差があってもそのまま適用する
- g) 詳細はすべて開幕前に申し合わせるものとする。

大会要項補足②・参加チーム数による開催方法

- a) 参加チーム数が少ない場合は予選リーグを総当たり2試合以上とすることもある。
- b) 参加チーム数が17チームを超えたら予選リーグは2つ以上に分割する。
- c) 準決勝リーグへ出場出来るチーム数は予選リーグ参加チーム数により大幅に変動する。
- d) プレーオフの方式や出場資格については開幕前に申し合わせる。

大阪マンデーベースボールリーグ 大会要項補足

大会要項補足③・勝点が同点の場合

- a) 予選リーグについては直接対戦の勝敗成績を最優先する(引分抽選も有効)
- ① a)以下、勝率、勝数、負数、得失点差、平均得点、同失点、、最大得点、同失点の順に検証する。
 - ② 3チーム以上が同点の場合は対戦成績は考慮せず勝率を比較し、以下①の順に検証する。
 - ③ 上記②の比較で劣っているチームをふるい落とし、さらに①の項目の順で絞っていく。
 - ④ 例えば勝率の比較で2チームに絞られた場合、それ以降は対戦成績でなく勝ち数を比較する。
- b) 準決勝リーグ、順位決定リーグの順位については予選リーグの順位を最優先する
- c) 上記bでも決まらない場合は当該リーグ戦の直接対戦成績を優先する(引分抽選も有効)
- ※3チーム以上が同点の場合は対戦成績は考慮せず勝率を比較する。
- d) b,cでも決まらない場合はa)の①の項目順で検証する。
- e) a,b,c,dでも決まらない場合は再対戦とする場合がある。
- ※再対戦の試合の個人成績は記録に採用しない。またレコードの表彰はしない。
- f) 但し、同順位のままに特に差し支えない場合はそのまま大会を進行する場合もある

大会要項補足④・試合時間

- a) 試合時間の管理の権限は主審またはそれに準ずる者(以下主審)が持つものとする。
- b) 主審は当該試合中のチームに限らず部外者にも試合の開始時間、残り時間などに関する質問には答えない。
- c) 試合開始から90分を超えて新しいイニングに入らない。
- d) 90分経過時点で勝っているチームが後攻の攻撃中だった場合はその打者の完了を以って試合終了とする。
- e) 上記d以外のすべての場合はそのイニングの完了を以って試合終了とする。
- f) 各チームで管理する試合時間と主審の管理する試合時間が著しく適正でない場合、チーム責任者は主審に試合の再開または終了を要求することができる。ただしすべての権限は主審にあるものとする。
- g) 天候やその他により試合が中断した場合、失われた試合時間の補充は主審の裁量に委ねる。(ロスタイム)
- h) イニング途中で試合終了の場合でもその時点までのすべての個人記録を有効とする。
- i) 球場の使用時間などの制約によりやむを得ず規定の試合時間より短くなる場合はそれを公式の試合時間とする。
- j) 上記iの場合で先攻の攻撃途中で試合終了した場合はその直前のイニングのスコアで勝敗を決することがある。
- k) 上記i,jの場合で先攻が逆転したと仮定した上で、さらに後攻の攻撃を行うことが時間的に不可能だとあきらかな場合、主審は先攻チームの攻撃前に協議の上了承を得れば試合を終了しても良い。
- l) 雨天などの場合の試合成立は5回だが通常的时间切れなどの場合はその限りではない。
- m) 上記bの場合でも球場の使用時間が迫っている場合はその限りではない。
- n) 前の回からリードしている先攻の攻撃途中で試合終了の場合はすべての得点を記録する。
- o) 前の回にリードされていた先攻の攻撃途中で試合終了の場合はその回の得点は記録しない。
- p) 上記oの場合でも同hに則り完了した個人記録はすべて採用する。

大阪マンデーベースボールリーグ 大会要項補足

大会要項補足⑤・タイブレーク方式

- a)タイブレーク方式は勝敗をはっきりさせなければならない試合の延長戦にのみ採用する。
- b)ワンアウト満塁でそのイニングを始め、打順は前のイニングから引き継ぐ。
- c)満塁の走者はバッテリーも含む一番遠い打順の3名とし、それぞれきめられた塁で走者となる。
- d)選手の交替などは通常の野球ルールに則る。
- e)投手の完全試合の記録は消滅するがノーヒットノーランは継続する。
- f)投手記録で最初の3走者に関しては自責点としないが失点は記録される。
- g)投手の記録上、1イニングは2/3回とする。
- h)最初の3走者の得点や打者の打点は記録する。
- l)個人成績は記録するが、タイブレークに入ってから達成された新記録などは精査し参考記録に留める場合がある。

大会要項補足⑥・人数不足による棄権試合

- a)試合開始の整列時に9名揃っていない場合、そのチームを不戦敗とする。
- b) a)の場合、主審の札の合図を以って試合成立とする。
- c)トイレや車の移動(正規に駐車していた場合)などで事前に了承を得ていた場合で
試合開催に別段影響が無い場合はその限りではない。
- d) a)の9名揃うというのはユニホームを着用して整列できる状態を言う。
- e) d)の場合急な電話や、ベンチの整理整頓などに手間取る場合はその都度考慮する。
- f) e)の文言は常識的に幅広く解釈するものとする。
- g)責のないチームの能動的な申し出により試合時間を遅らせることは差し支えない。
- h) g)も含め、なんらかの理由で試合開始を遅らせた場合、それにとまう不都合などはすべて了承したチームの責とする。
- i) g)h)の場合、了承したチームは正規の試合開始時間から制限時間をカウントすることも了承したとみなす。
- j)交通事故、交通渋滞や駐車場が無い、満車など注意すれば予見できる日常的なものは選手不足の理由に認めない。
- k) j)の補足としてメンバー表作成、ミーティング、アップなどの時間と通常交通渋滞などを考え、
開始1時間前を各選手の到着目標の目安とする。よってその時間帯での交通渋滞や災害による
高速道路の閉鎖、公共交通機関の遅れなどによる理由での人数不足は原則認めない。
- l)選手不足がやむを得ないかどうか判断出来ない場合は、ひとまず棄権試合(不戦敗)で試合成立とする
その後のメディアやネットのニュースなど、また他チームもそうであったかなど総合的に判断し
やむを得ない事案であったかどうかを精査する、その上で認められた場合は記録無しとし後日再試合をする。
- m)人数不足でメンバー表などが未提出であっても、主審は決められた時間に試合開始を告げ、選手はそれに従う。
- n)試合開始時間とは開催当日の実際の時間を言い、日程表に記載している開始予定時間のことではない。
- o)ただしイベント的な大会やオープン戦についてはこの限りではなくそれぞれの取り決めに従うこと、
決勝大会や近畿リーグなどは不戦敗とせず得点差によるペナルティを与える場合もある。

平成24年1月改正 ③勝ち点が同点の場合のa),c),d)

平成25年1月追加 ⑥人数不足による棄権試合全文

平成27年1月 本項の名称を大会要項特記事項から大会要項補足に改める

平成29年1月改正 ①リーグの分割 ②参加チーム数による開催方法